支部だより

九州支部 第１回気象サイエンスカフェin かごしま

鹿児島地方気象台　横山博文

2014年２月１日（土），鹿児島市で日本気象学会九州支部（以下，九州支部），日本気象予報士会鹿児島支部（以下，予報士会），鹿児島地方気象台（以下，気象台）の共催により，気象サイエンスカフェを開催した．気象サイエンスカフェは2006年頃から国内各地で開催されており，九州支部においても2010年から福岡市で開催しているが，ここ鹿児島市では初めての開催となる．会場は，鹿児島市の中心繁華街である天文館の一角にあるテナント型商業施設「マルヤガーデンズ」，その最上階にある「シンケンスタイルキッチン」という洒落た雰囲気のカフェレストランを利用した（第１図）．

ゲスト（講師）は，鹿児島大学水産学部水産学科の中村啓彦准教授（専門は海洋物理学）にお願いすることとし，黒潮の蛇行形状・流路・流速分布などの変動メカニズム，沖縄トラフの中深層水の循環メカニズム，東シナ海から日本南岸の黒潮が大気に及ぼす影響などについて研究されている観点から『黒潮と天気のヒミツ～鹿児島の自然と生物に黒潮が与える恵み～』をテーマに，天気や水産資源などの切り口で，黒潮と，私たちの日々の生活とのかかわりについて話題を提供していただくこととなった．ファシリテータ（案内人）は，地元テレビ局で活躍している大山有布佳気象予報士（MBC 南日本放送）と渡司陵太気象予報士（KTS 鹿児島テレビ）のお二人にお願いした．我々にとっては初めての取り組みであり，集客に不安を感じていたが杞憂におわり，案内開始から１ヶ月足らずで募集定員の30名に達した．

第１図　サイエンスカフェの様子．左下はドリンクセット．

当日は，小学生から年配の方まで幅広い年齢層で，開演時刻の15時30分を待たずにほぼ満席となり，90分間のイベントの幕開けを迎えた．導入は「椰子の実」という歌から始まる．遠い島から伊良湖岬に流れ着いた椰子の実を詠ったもので，そこから黒潮の流路・速度，世界各地の海流，熱輸送など，その特徴やしくみの説明へと自然に進んでいく．そして，環太平洋地域の大気と海洋の間で数十年周期で起きている変動やマイワシ漁獲量との関係，黒潮が日本付近まで膨大な熱を運んで放出していること，黒潮の流路が気象や気候に与える影響など，徐々に専門的な話へと進む．中村先生の豊富な知識や，大山さん，渡司さんの巧みな司会進行のもと，時折クイズを交えながら，和やかな雰囲気で，盛況のうちに閉幕した．翌日の新聞には，イベントの様子や来場者の感想を記した記事が掲載され，来場できなかった方々にも日本気象学会の活動の一端を知っていただくことが出来たと思う．

公益社団法人である我々には，社会への貢献が求められる．今後も，このような普及啓発活動を通して責任を果たしたいと思う．イベントの開催にあたり，ともに尽力いただいた関係のみなさまに深く感謝し，本稿の終わりとしたい．